

静岡聖光学院『お母さん助けて詐欺』対策キャンペーンについて

平成25年7月10日

静岡聖光学院同窓会会長 水野彰一

平素は静岡聖光学院同窓会活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。今回、静岡聖光学院卒業の同窓生の両親が電話での詐欺の対象になり多数の被害者がでていたために、犯罪被害に遭わないために同窓会としてキャンペーンを組むこととしました。

【目的】

此処数年で聖光学院出身者の高齢のご両親に電話での詐欺の被害者が多数出たために、その犯罪被害防止が今回のキャンペーンの目的です。

【キャンペーン名】

聖光ホッとテレフォン 運動

【期間とキャンペーン方法】

平成25年7月から平成26年3月末日まで

期間については詐欺事件の様子を見て検討いたします。

【キャンペーン方法】

毎月8日、18日、28日（初代校長ピエールロバート先生の月命日が8日のため）に卒業生ご本人からご両親に連絡を取る日としました。

同窓会ホームページ、フェイスブック上のチームピエールロバートなどを通じて同窓生に呼びかける。被害者が70歳以上を中心としているために1期から各期での卒業生を中心に同窓会幹事を通じて各期に伝達をお願いします。

別途 ご案内文章を添付します。

※現在も犯罪被害がでていることから大至急の回覧をお願いします。

【聖光ホッとテレフォン週間】運動

不定期ではありますが、繰り返し静岡聖光学院の父兄が「母さん助けて詐欺」の被害に合っています。対象名簿は「カモリスト」などと呼ばれ、詐欺グループ間で引き継がれ回されてしまっているようです。この類の事件は、コレだけ騒がれているのに「どうして、ひっかかってしまうの？」と思う人も多いはずです。

会話をしてしまうとそれだけ相手の口車に乗ってしまいやすいと警察は分析しています。

それだけ犯人たちが親心に付け込む、親に助けて欲しいという演技が上手いのでしょうかと思います。

どこかで事件を聞いても大概「私は大丈夫」と考えるのでしょうか

現実に次々と被害が出ている事を思えば、親の子に対する親心というものは、確実に永久不滅なのです。

たとえ子供がミドルやシニアになったとしても、いつまでも親は親なのです。

是非、親御さんと連絡をとって下さい。

そして詐欺の電話がなかったか状況を確認してもらって、

ご自分のことをご両親とお話ください。

また、

①絶対に電話でお金の貸し借りの話はしないとか、

②誰にも公開していない情報をお互いに確認するように決めておくとか

③「最近のんでるお酒は？」と言ったら「磯自慢」

「好きな食べ物は？」と言ったら「立ち食いソバ」などと合言葉を決めておくとか

④携帯電話を紛失し番号が変わったと言いますが、

再度必ず前の携帯に電話をかけてみるように注意をしてもらおうとか

是非それぞれ出来る工夫をしていただきたい。

犯罪者のネットワークは複数あります。

ここ数年のスパンから推測するに今年もう一度位繰り返されるかもしれません。

同窓会としては情報が入り次第に注意報を出します。

その時には【聖光ホッとテレフォン週間】ということで実家に電話をかけて欲しいのです。

始まりでしたら1週間から2週間が山です。

ほとんど最初は家の電話にかかります。

そして非通知か0120でかかってきます。

留守電視しておくのが良いと警察は言いますが、ソレもなかなか難しいでしょう。

是非とも前述の工夫をしていただきたいと思います。

そして次の被害者が出ない事を切に願います。

静岡聖光学院ネットワークの強さを見せつけ

各詐欺集団が「静岡聖光学院の名簿は全く使えない」と確実に思わせてやりたいと思います。

ご理解を宜しくお願い致します。

静岡聖光学院 同窓会会長 水野彰一